

# 大樹でカムイ打ち上げ成功

## 宇宙産業誘致に希望

### HASTIC 事業展開へ自信

【大樹】宇宙航空研究開発機構（JAXA、東京）と北大が16日午前、道産小型ハイブリッドロケット「CAMUI（カムイ）」2基を打ち上げた実験の成功は、関係者や地大樹町に大きな希望を与えた。同ロケットの開発を進めてきたNPO法人北海道宇宙科学技術創成センター（HASTIC、札幌）は、事業化への本格的な一歩を踏み出したことに今後の展開への自信を深め、航空宇宙産業誘致をまっしぐらの1つに掲げてきた大樹町にとっても、その取り組みにさらに弾みをつける形となった。

カムイはHASTICが2002年に開発を開始。同理事で北大大学院の永田晴紀教授らは小型で、火薬ではなく液体酸素とポリエチレンを使うハイブリッドロケットに着目した。火薬を使った打ち上



記者会見で実験の成果を話す関係者。右から伊藤理事長、JAXAの植田修一研究領域リーダー、永田教授

げ実験は「安全管理などの面から射場が国内でも限定される上、費用が少なとも1000万円が必要」（永田教授）という。今回のカムイ打ち上げの費用は約500万円。安価で安

全なロケットを開発し、飛行時の環境試験の道具として民間団体や教育機関へ提供することを目指してきた。現在は速度マッハで高度3・5キロが最高だが、「いずれはマッハ2で高度20キロを実現させたい。事業として多々の需要も見込まれる」と同。HASTICの伊藤一理事長は「ロケットを使った宇宙文化を切り開き、宇宙や航空分野にかかわる人のすそ野を広げたい」と話す。

今回はJAXAが開発を進める宇宙輸送機用の複合エンジンの実験。1つのエンジンで離陸から超音速まで速度を調整できる。構想では同機は母機と子機から成り、同エンジンを搭載した母機で超音速まで加速。高高度で分離された子機が宇宙へ飛び立ち、両機ともまた基地に戻ってくるというもの。16日の打ち上げは、離陸から超音速に至る実

での「エジクスタージェットモード」のテストだった。1985年以降、宇宙のまちとして歩んできた大樹町にも、今回の実験は意義深いものとなった。打ち上げを見学した休見院木町長は「宇宙が近々あった気がした。いずれ大樹と結ばれたらと基地化への夢を描き、JAXAやHASTICに対し、今後実験を行いやすい環境を

提供していきたい」と支援を約束している。（北雅貴）